

2008年(平成20年)3月期 中間決算説明会

2007年11月14日

沢井製薬株式会社

SAWAI PHARMACEUTICAL CO., LTD.

証券コード: 4555 東京証券取引所市場 第一部

はじめに ～沢井製薬の取り組みについて

品 質

- 高度な生産環境、設備
- 原料の厳選
- 品質管理体制

情報提供

- 300名のMR(2005年から100名増)
- 7支店・12営業所の営業拠点網
- スピードと質・量の確保

安定供給

- 九州、三田、関東など5工場体制
- 設備投資、生産増強により生産体制拡充
売上規模700億円程度にも対応可能
- 卸、販売会社を活用した全国を網羅する物流体制

CONTENTS

I . 平成20年3月期 中間決算報告

II . 平成20年3月期 通期業績予想・展望

1. 平成20年3月期 中間実績(連結)

(単位:百万円、%)

中間期損益	2007年3月期中間	2008年3月期中間	前中間期実績対比	
	金 額	金 額	増減金額	増減率
売上高	16,810	18,037	1,227	7.3
売上原価	8,604	9,779	1,175	13.7
(売上比)	(51.2%)	(54.2%)	(+3.0%)	
売上総利益	8,205	8,258	53	0.6
(売上比)	(48.8%)	(45.8%)	(▲3.0%)	
販管費	5,499	6,677	1,178	21.4
(売上比)	(32.7%)	(37.0%)	(+4.3%)	
営業利益	2,706	1,580	▲ 1,126	▲ 41.6
(売上比)	(16.1%)	(8.8%)	(▲7.3%)	
経常利益	2,622	1,260	▲ 1,362	▲ 52.0
(売上比)	(15.6%)	(7.0%)	(▲8.6%)	
中間純利益	1,419	528	▲ 891	▲ 62.8
(売上比)	(8.4%)	(2.9%)	(▲5.5%)	

2-1). 売上高

前中間期実績: **16,810** 百万円(対前34.6%増)

- ・「処方せん様式変更」により、売上急拡大
- ・02年7月以降収載品、特に生活習慣病薬が大幅伸長



当中間期実績: **18,037** 百万円(対前7.3%増)

- ・制度変更影響一巡。期待どおりに市場拡大が伸展せず、採用品増も低調に留まる
- ・当期新製品の不振

(会計方針等変更) ・売上割戻引当金

2-2). 実績の推移: 医療機関別売上

医療機関		2007年3月期中間	2008年3月期中間
病院 【全国総数: 9,000軒】	前年同期比伸長率	35.9%	6.2%
	取引先軒数(カバー率)	7,100 (79%)	7,400 (82%)
診療所 【全国総数: 100,000軒】	前年同期比伸長率	24.8%	1.3%
	取引先軒数(カバー率)	36,900 (37%)	38,000 (38%)
保険薬局 【全国総数: 50,000軒】	前年同期比伸長率	86.6%	15.5%
	取引先軒数(カバー率)	33,300 (65%)	36,200 (70%)
その他	前年同期比伸長率	▲5.6%	2.7%
前年同期比伸長率		31.7%	7.4%

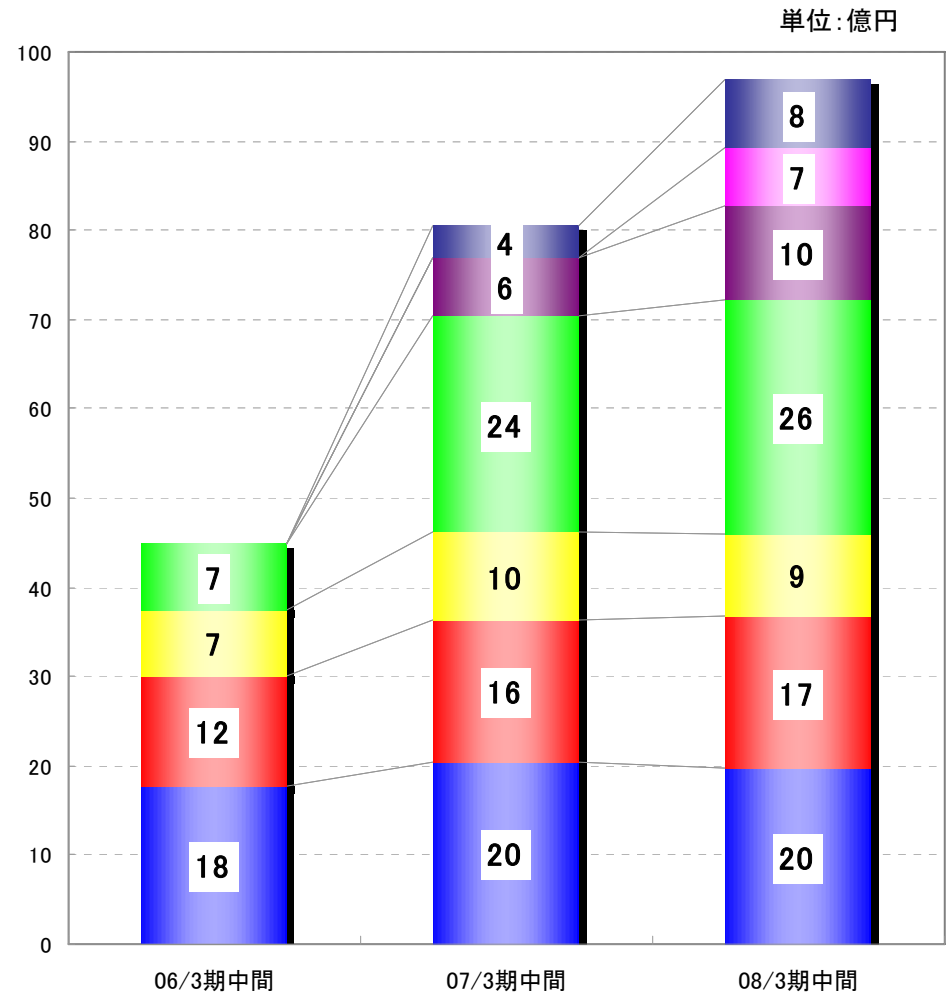
※販売提携、原材料・加工賃などの売上は除く。

2-3). 実績の推移: 収載年度別売上

収載年度別 中間期売上高(連結)

(単位: 億円)

実績	06/3期 中間	07/3期 中間	08/3期 中間
承継品		4	8
07/7収載			7
06/7収載		6	10
05/7収載	7	24	26
04/7収載	7	10	9
03/7収載	12	16	17
02/7収載	18	20	20
既存品他	79	91	83
総計	124	168	180



■ 02/7収載

■ 03/7収載

■ 04/7収載

■ 05/7収載

■ 06/7収載

■ 07/7収載

■ 承継品

3. 売上総利益・販管費

■ 売上総利益額微増、同率の低下

売上の伸びが低調に推移した中、
適正在庫水準に向けた在庫低減に努めた結果、売上原価率が上昇

(会計方針等変更) ・返品調整引当金 ・有形固定資産の減価償却

■ 販管費：6,677 百万円（前年比 約12億円増。ただし、期初計画内）

将来の需要拡大を展望した人員、開発品目への先行投資

(金額:百万円)	前中間期	当中間期	前期比 増減金額	主な増減要因
人件費	1,687	2,153	466	MR人員増、化研生薬(前下半期に連結化)
試験研究費	1,214	1,530	316	開発品目の増加、年2回収載対応(開発予定前倒し)
業務手数料	517	765	248	販売情報提供料率のアップ他
広告宣伝費	710	434	▲ 276	前期は制度変更に伴い積極的にTVCMを実施

(会計方針等変更) ・有形固定資産の減価償却

4. 連結貸借対照表

(単位:百万円)	前期末 (A)	当中間期末 (B)	増減 (B)－(A)	主な増減要因
資 産	67,827	66,026	△1,800	・生産設備支払実行及び借入返済 ⇒現預金の減少(前期末比△2,832百万円) ・売上増加 ⇒受取手形及び売掛金の増加 (前期末比＋427百万円) ※休日影響 約1,200百万円 ・たな卸資産の減少(前期末比△917百万円) ・関東工場、三田工場の機械設備増強 ⇒有形固定資産の増加 (前期末比＋1,620百万円)
負 債	28,506	26, 610	△1,895	・長短借入金減少 (前期末比△866百万円) ・設備支払による未払金減少 (前期末比△587百万円)
純資産	39,321	39,415	94	

1. 平成20年3月期 通期業績予想

(単位: 百万円、%)

通期業績予想	2007年3月期通期 前期実績	2008年3月期通期 当期業績予想(修正)	前期対比増減	
	金 額	金 額	増減金額	増減率
売上高	34,316	36,500	2,184	6.4
売上原価	17,356	19,200	1,844	10.6
(売上比)	(50.6%)	(52.6%)	(+2.0%)	
売上総利益	16,960	17,300	340	2.0
(売上比)	(49.4%)	(47.4%)	(▲2.0%)	
販管費	12,267	13,400	1,133	9.2
(売上比)	(35.7%)	(36.7%)	(+1.0%)	
営業利益	4,692	3,900	▲ 792	▲ 16.9
(売上比)	(13.7%)	(10.7%)	(▲3.0%)	
経常利益	4,331	3,100	▲ 1,231	▲ 28.4
(売上比)	(12.6%)	(8.5%)	(▲4.1%)	
当期純利益	2,259	1,600	▲ 659	▲ 29.2
(売上比)	(6.6%)	(4.4%)	(▲2.2%)	

2. 今後の事業戦略

DPC病院攻略

新規開拓・深耕開拓

- 病院課MR25名による定期訪問、病院経営幹部説明会、医局説明会実施
- 営業学術部門、医薬情報部門による情報提供の充実

卸MSとの**連携強化**、
デポ訪問を積極化

製品戦略等、
マーケティング機能
の充実化

保険薬局市場獲得

信頼構築・深耕開拓

- 品質・情報・安定供給
「サワイブランド」へのさらなる信頼獲得
- 安全性情報の迅速な提供

診療所市場獲得

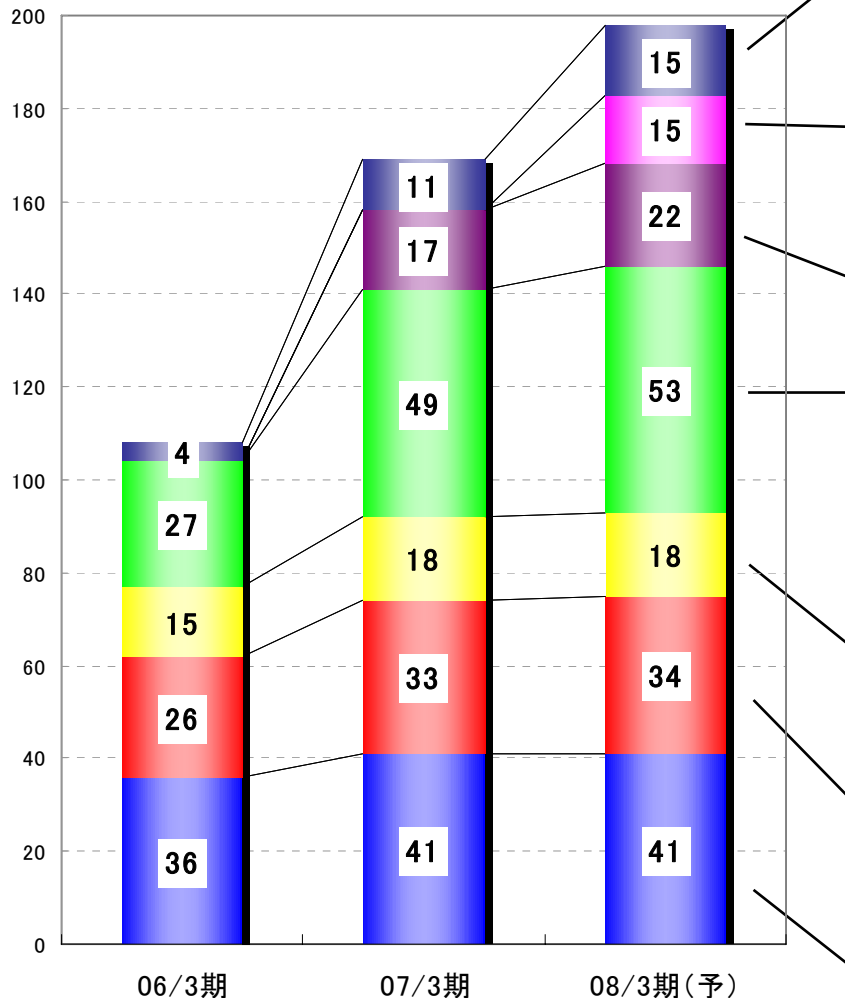
新規開拓

- ドクター＝院外処方せん発行元、が最大のターゲット
処方せん様式再変更に向けた布石を打つ
- 新製品拡販、ディテール活動の強化

(参考)収載年度別売上高の見通し

収載年度別売上見通し(連結)

単位: 億円



承継品他(17品目): 15億円 (期初予想: 15億円)

【対象品目: ドイル、カフロシン、コレミナル、ピカモール、セファランチン】

07年7月・11月収載品(37品目): 15億円 (20億円)

【主要品目: ホグリボースOD、セチリジン、リスペリドン、セフジトレン】

06年7月収載品(39品目): 22億円 (28億円)

【主要品目: クラリスロマイシン、ラミテクト(塩酸テルビナフィン)】

05年7月収載品(43品目): 53億円 (55億円)

【主要品目: ホグリボース、ハルスロー(塩酸タムスロン)、
ラソプラン(ランソプラゾール)、エパタット(エパルレスタット)】

04年7月収載品(17品目): 18億円 (20億円)

【主要品目: イトラート(イトラコナゾール)】

03年7月収載品(10品目): 34億円 (36億円)

【主要品目: プラバチン(プラバスタチン)、リボダウン(シンバスタチン)】

02年7月収載品(21品目): 41億円 (43億円)

【主要品目: ファモチジン、エヒナジオン(塩酸エヒナスチン)】

■ 02/7収載 ■ 03/7収載 ■ 04/7収載 ■ 05/7収載 ■ 06/7収載 ■ 07/7・11収載 ■ 承継品

- 本資料に記載されている弊社グループの計画・予測・戦略などにつきましては、すでに確定している要素を除き、潜在的リスクや不確定要素を含んでおり、その内容を保証するものではありません。
- 潜在的リスクや不確定要素には、弊社グループの主たる事業領域であります医療用医薬品を中心とした経済環境、市場における競争状況、弊社グループのサービス等が考えられますが、これらに限定されるものではありません。